

感染対策室

感染対策室長

副院長 北 和彦

はじめに

昨今の感染症法による感染症の分類の複雑化、新興感染症や再興感染症の発生及び多剤耐性菌の増加に伴い、指針、マニュアルの改定、職員・患者への周知・教育や現場への介入など院内感染対策部門は多くのことが求められるようになりました。海浜病院は、地域医療支援病院として感染管理においても地域の病院との連携や小規模病院への指導等の責務があります。

これらの重要な役割を担うために、平成 30 年度 4 月から感染対策部門を医療安全室から独立させ、新たに感染対策室を設置して 2 年経ちました。令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症への迅速な取り組みは、感染対策室の重要性をさらに認識することができましたので 1 年間の振り返りとともにご報告いたします。

【部門目標・評価】

目 標

感染管理に関する院内全員の知識・意識の向上をめざし、研修の参加率を 90%とする

評 価

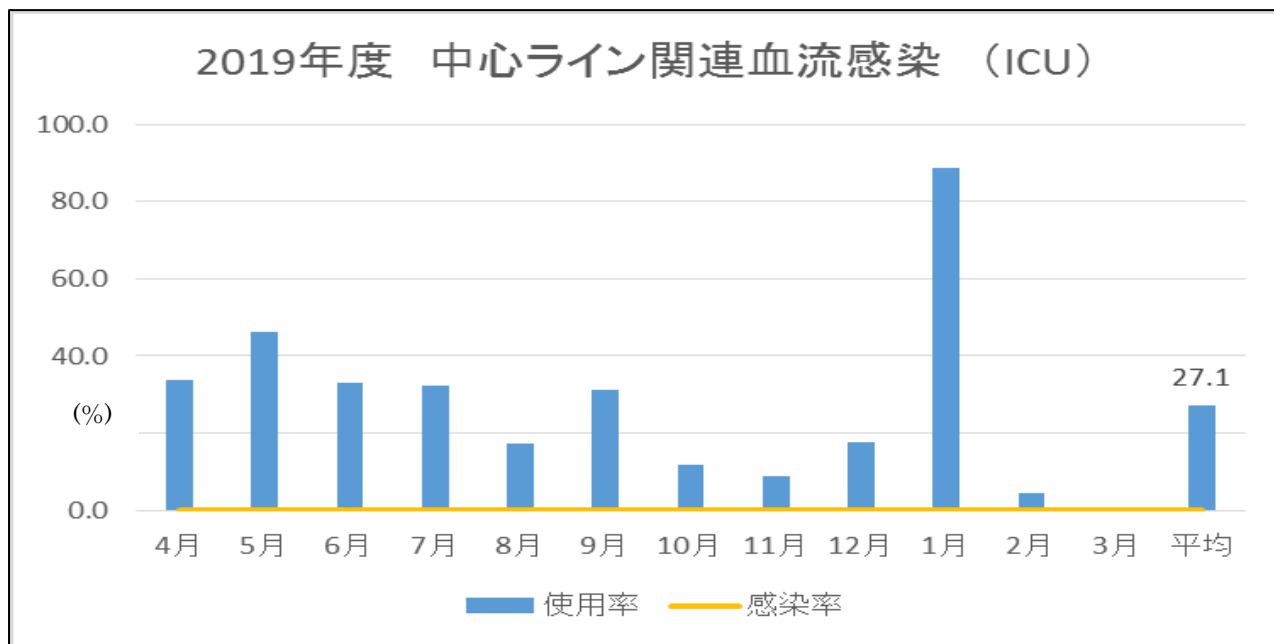
全体研修の参加率は第 1 回目が 92%で、第 2 回目が 78%であった。第 2 回目の研修参加率が低かった理由として、厚生局の指導を受けて一部研修の開催方法を変更した。しかし、その内容が十分に周知されていなかったことが理由として考えられる。次年度は目標を達成できるようにしていきたい。

【業務体制・スタッフ】

役職名等	氏名	感染管理・マネジメントに関する資格等	業 務
感染対策室長 副院長	北 和彦		<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策責任者として院内感染防止対策の推進及び活動全般の支援
感染症内科部長	阿部 克昭	感染症専門医	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止対策の推進 ・院内感染防止対策のための方策、実施の確認に関すること ・感染対策委員会の委員長となり、毎月1回開催 ・ICT 及び AST への意見・提案・助言
感染管理看護師 (専従)	大内 咲絵	感染管理認定看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止対策の推進 ・ICT 専従職員として院内感染対策のためのマニュアルの見直しや実施状況の監査 ・AST 専従職員として抗菌薬の適正使用のためのマニュアルの整備や実施状況の監査 ・ICT 及び AST の決定事項について感染対策室長へ報告 ・院内外の感染管理に関する研修の企画・運営 ・感染防止対策地域連携加算に係る業務 ・職員の予防接種に関すること ・職員の血液・体液曝露に関すること
感染管理看護師 (兼任)	高本 京子	感染管理認定看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止対策の推進 ・専従の感染管理認定看護師の業務全般の補助
薬剤部長	小原 義巳	感染制御認定薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止対策の推進 ・AST の委員長として毎週のラウンド及びカンファレンスの開催
臨床検査技師	静野 健一	感染制御認定臨床微生物検査技師	<ul style="list-style-type: none"> ・院内感染防止対策の推進 ・ICT の委員長として毎週のラウンド及びカンファレンスの開催

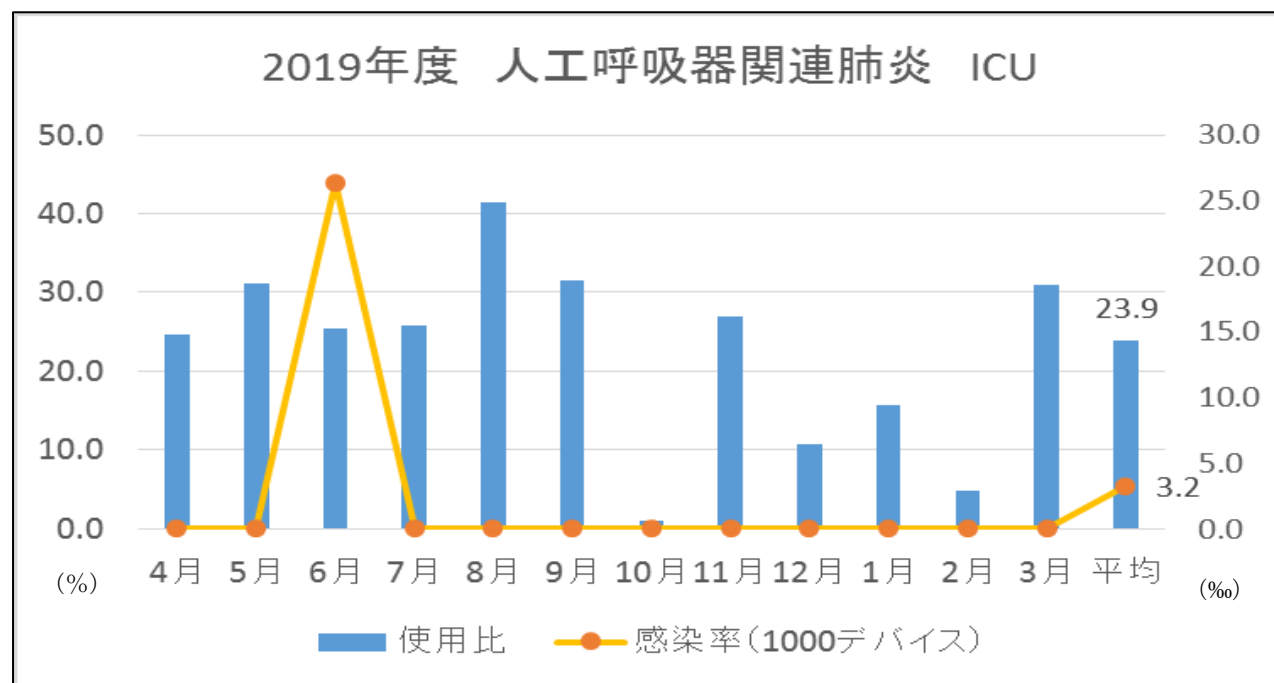
【サーベイランス】

1) 中心ライン関連血流感染サーベイランス (ICU)



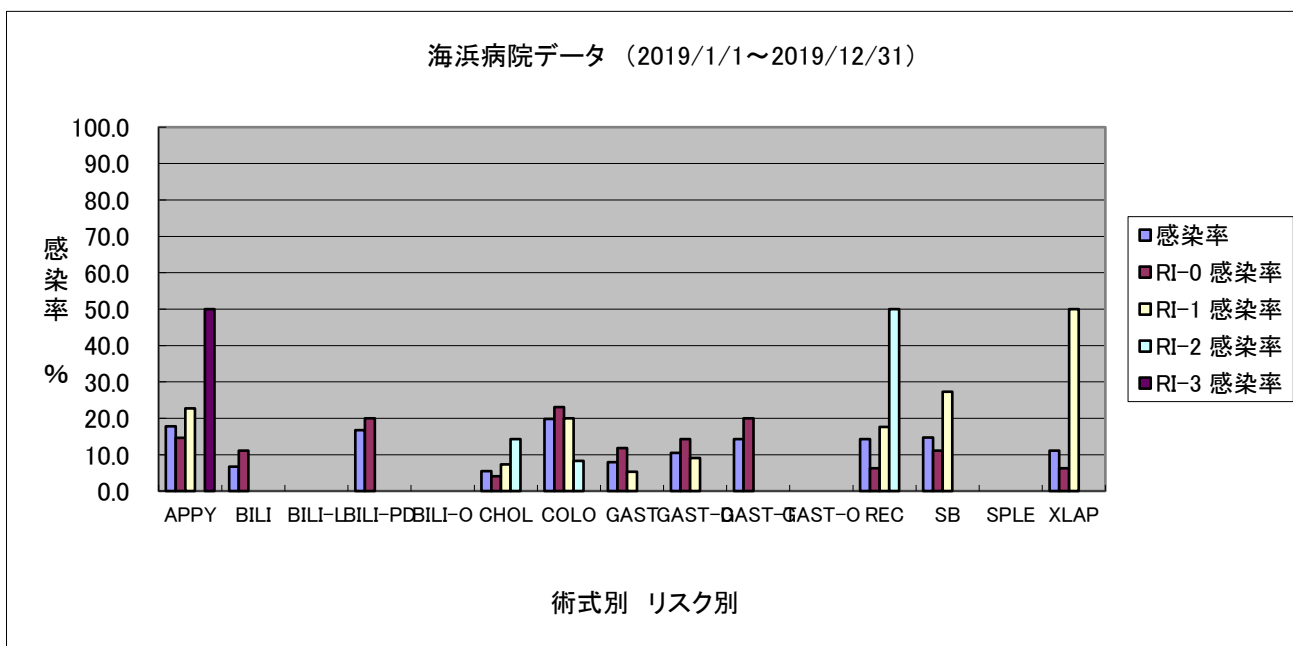
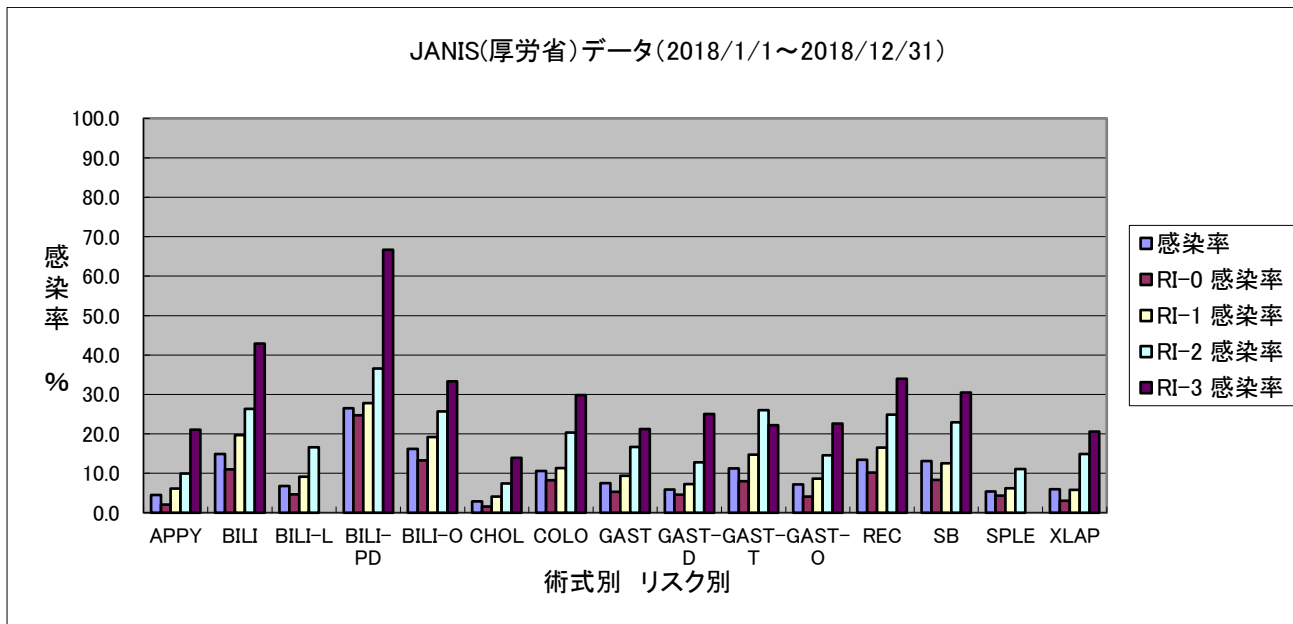
JHAIS 2009年4月～2018年12月データ 使用率：37% 感染率：1.6‰

2) 人工呼吸器関連肺炎サーベイランス (ICU)



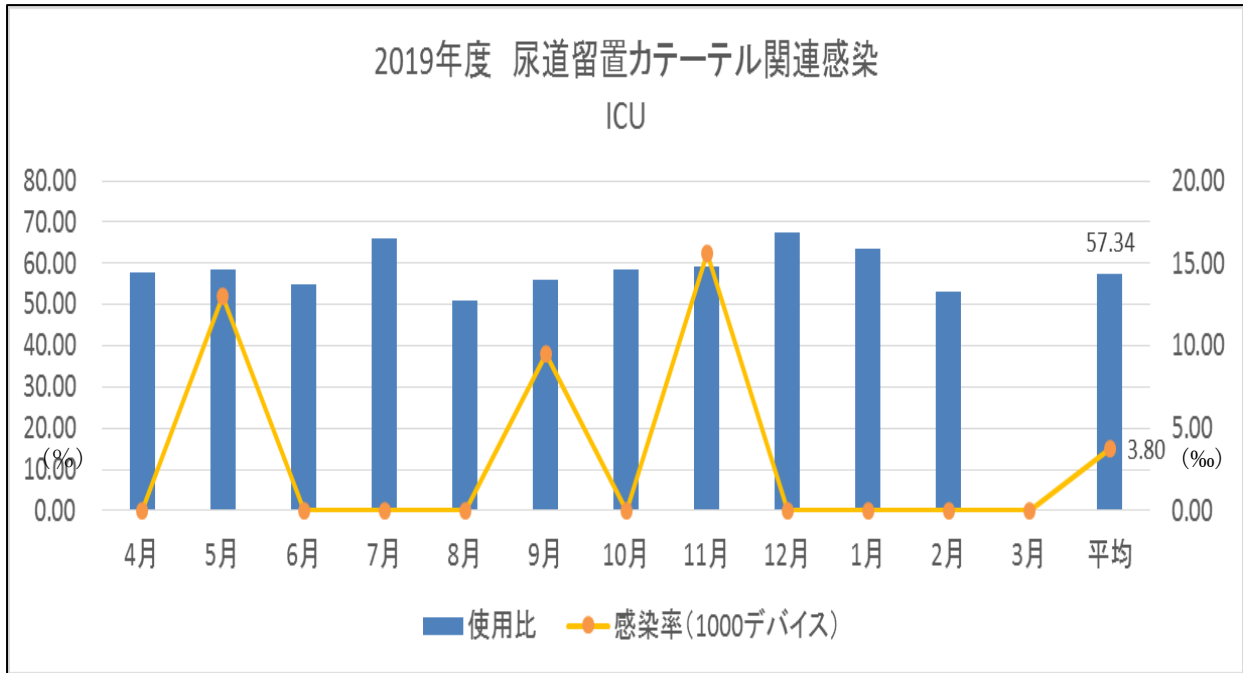
JHAIS 2009年4月～2018年12月データ 使用率：34% 感染率：3.2‰

3) 手術部位感染サーベイランス



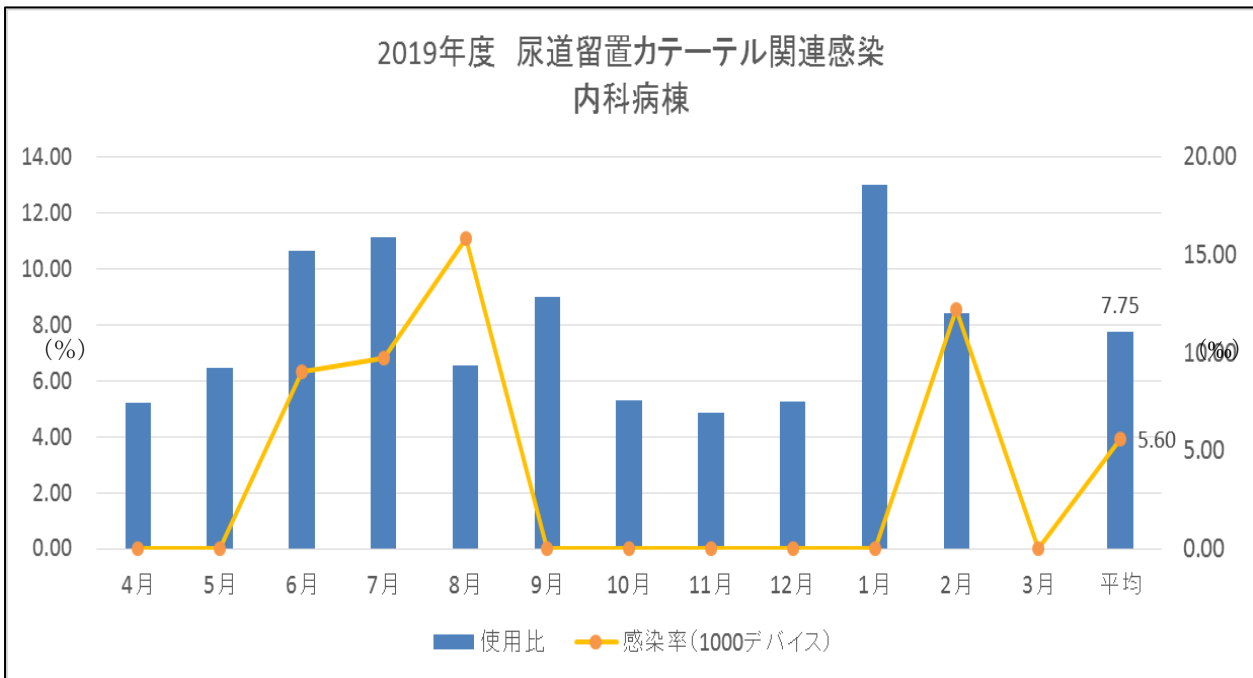
APPY	虫垂の手術
CHOL	胆嚢摘出・胆嚢切開
COLO	大腸の切開・切除または吻合
GAST(合計)	
GAST-D	幽門側胃切除、B I・B II 再建
GAST-T	胃全摘
GAST-O	胃手術(胃の切開・切除)
REC	直腸の手術
SB	小腸の切開あるいは切除
SPLE	脾臓の切除または操作

4) 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス ① ICU



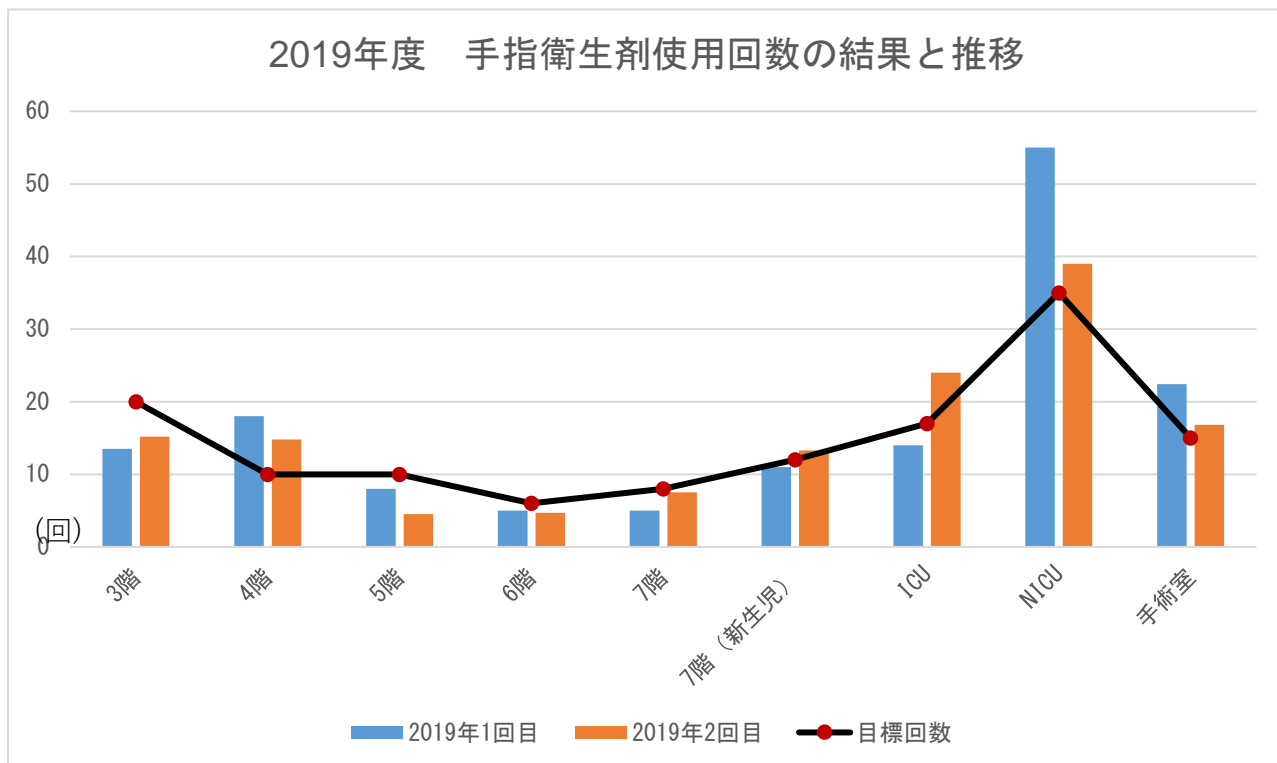
JHAIS 2009年4月～2018年12月データ 使用率：76% 感染率：1.5%

4) 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス ②内科病棟

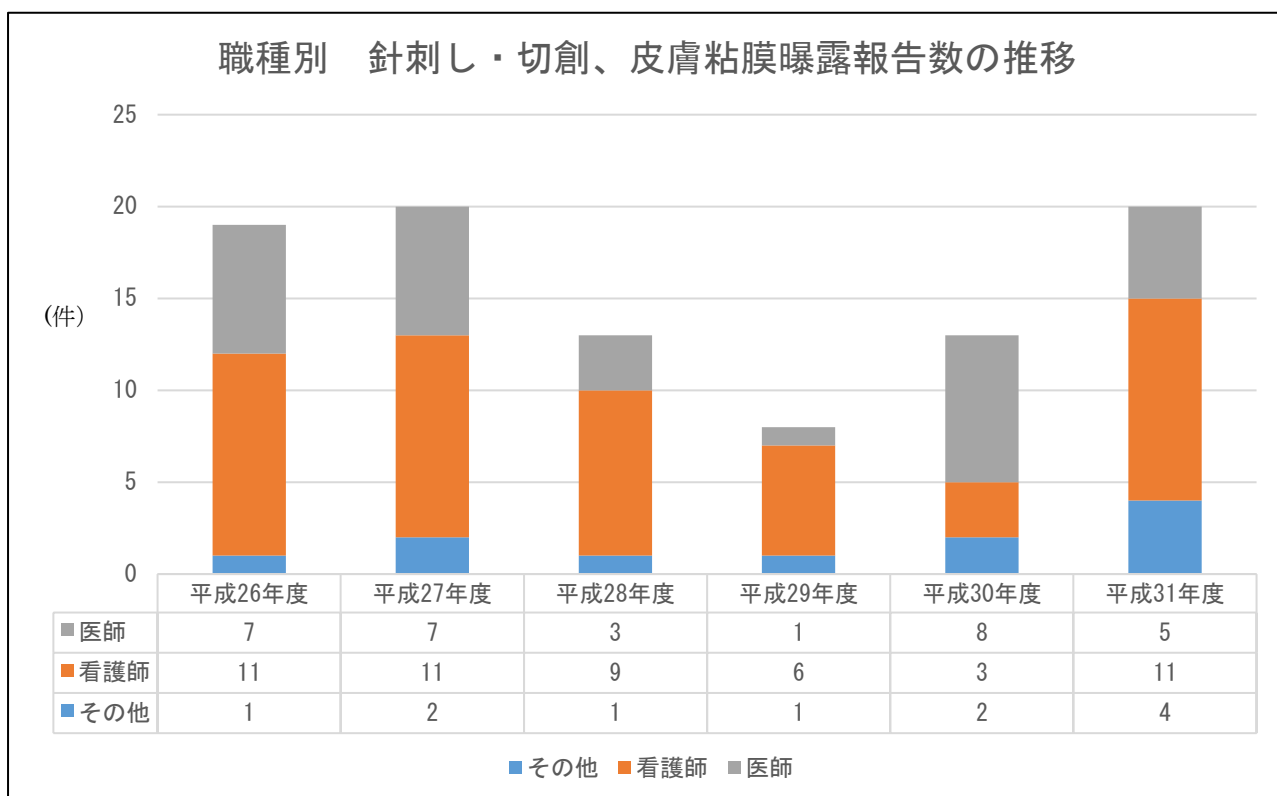


JHAIS 2009年4月～2018年12月データ 使用率：16% 感染率 1.9%

5) 手指衛生剤使用量調査



6) 針刺し切創、皮膚粘膜曝露報告



【研修実績】

分類	テーマ	内容	開催月	対象者	受講者数 (受講率)
必須 研修	第1回 感染管理全体研修会 ／抗菌薬全体研修会	麻しん・風しんについて 血液培養 重要性の再確認 AST 対象症例から学ぶ感染症	6月 7月	全体	605 人 (92%)
		アウトブレイクについて 感染性胃腸炎と感染対策について	12月 1月	全体	496 人(78%)
	第2回 感染管理全体研修会 ／抗菌薬全体研修	抗菌薬適正使用状況について		医師・看護 師・薬剤師・ 検査技師	227 人(58%)
感染 管理 教育	新採用者オリエンテーション	医療関連感染防止における当院の 取り組み	4月	新採用者	54 人
		感染防止策			
		針刺し事故を防止するために			
	職業感染防止研修	針刺し予防	4月	看護師	21 人
	看護補助者への標準予防策	手指衛生 こんな時どうしてます か？	1月	看護 補助者	11 人

【総括】

2019年前半は MRSA のアウトブレイクに対し、ICT による病棟ラウンドを通じて病棟と感染対策の強化をはかり収束へと至りました。12月には厚生局の適時調査を受審し、感染対策の組織図や全体研修の開催方法についてご指導頂き、修正等を行いました。

この頃から新型コロナウイルスの発生に伴い、多くの対策が必要となりました。当院の構造上、感染者と非感染者を分けるゾーニングが出来ない中で、いかに感染疑いの患者を早期に見つけ、適切な場所で診療を提供出来るか毎朝ミーティングし感染対策を講じてきました。その結果、多くの部署の協力を得ながら地域住民に対して安全で安心な医療を提供出来る環境を整えられたと思います。

今後も、病院スタッフと協力をしながら安全で安心な医療を提供出来るよう、感染対策に努めて参ります。